大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立：2000 年 1 月 13 日
■例会日：水曜日（12：30～13：30）
■例会場：中部コミュニティセンター
TEL 0475-73-3337 FAX 0475-73-4360
■事務所：〒299-3251
大網白里市大網 450-6　ユアサビル 2 階
TEL 0475-70-0200 FAX 0475-70-0222
■会 長：石田 英世　幹 事：高野 祐二
■広報・公共イメージ向上委員会
委員長　大越 将司・会報担当　石田 英世

2024 年 10 月 2 日(水)
第 26 巻 第 13 号
通巻第１０８７号

http://www.oamirotary.com
E-mail：rc@oamirotary.com

ロータリーの
マジック

本日の例会

点　　鐘　会長　石田 英世
唱　　和　四つのテスト
ソ ン グ　奉仕の理想
会長挨拶　会長　石田 英世
幹事報告　幹事　高野 祐二
プログラム
1. 奨学金授与式
2. 10 月誕生日祝い
　斉藤敏夫会員・清宮満巌会員
　関谷清一会員・矢部愼一会員
3. 理事会報告

ニコニコ BOX

無し

例会日	9 月 25 日	8 月 21 日
会員数	30	30
出　席	18	13
欠　席	12	17
M　U	0	2
免　除	5	9
出席率	77%	80%

会長挨拶

石田　英世　会長

みなさんこんにちは。
ようやく秋らしくなったかなと思った先週末、復興途中の能登半島が豪雨に襲われました。
23 もの河川が氾濫し、その原因として「3 つの要因」が重なったと指摘されています。

1 つ目は「地形」です。能登半島の河川は「長さが短いこと」。そして「急勾配である」ため、上流で降った雨が一気に下流に流れて水位が上昇しやすいということです。

2 つ目は「想定外の雨」です。護岸設計の際には、“計画雨量”を用います。この“計画雨量”は「多くてこれくらい降るのではないか」というものです。今回は、その雨量の 2 倍以上の雨が降った場所もありました。

そして 3 つ目が「地震の影響」です。元日の能登地震によって壊れた護岸が、仮復旧のままの状態でした。
仮設住宅も浸水し、半年待ってやっと入居できたのに「心が折れました」とテレビのインタヴューに答える老婦人に心が痛みました。

今回の豪雨は日本海上の秋雨前線に、太平洋高気圧と台風１４号の影響で南から暖かく湿った大量の水蒸気が流れ込んで起きもので、これも地球温暖化がもたらす異常気象が招いた深刻な災害と言えるでしょう。
２０１９年９月９日　房総半島台風（台風１５号）が千葉県を直撃し甚大な被害をもたらしたのは、まだ記憶に新しいところです。
これからの秋のシーズン　何が起こるかわかりません。油断は禁物です。

卓　　話　　神道研究家　木村 和彦 様

「古事記（こじき）」に学ぶ伝統的な日本のこころ

本日は、『古事記（こじき）』から神社の祭典のお話をします。
『古事記（こじき）』とは
戦乱が続く六世紀末の東アジアで、日本のこころを守り伝えるため、日本の言葉で書かれた物語が『古事記』です。『古事記』を読むことで、先人たちがおまつりや儀礼で伝えてきた「こころ」を確かめられます。

天地初発

天地初めて發けし時、高天の原に成れる神の名は、天之御中主神。次に高御産巣日神。次に神産巣日神。この三柱の神は、みな独神と成りまして、身を隠したまひき。

日本では、神は、天地・高天原を物実（ものざね）として生まれ、後に身を隠しました。身を隠しましたけれども、永遠の過去・モノが存在し始めた時から神様はいて、永遠の未来・モノが存在する限り神様はい続けます。

あの世（幽世・かくりよ）は夜の庭に、この世（顕世・うつしよ）は明るい部屋の中にたとえられます。この世からあの世は見えないけれども、あの世からこの世は良く見えます。

神様はこの世から身を隠しましたが、永遠にこの世を守っていますし、亡くなった人も同じように、永遠にこの世を見守っていると信じられています。

修理固成の詔

ここに天つ神諸の命もちて、伊邪那岐命、伊邪那美命、二柱の神に、「この漂へる國を修め理り固め成せ。」と詔りて、天の沼矛を賜ひて、言依さしたまひき。

天つ神は、天沼矛（あめのぬぼこ）というモノに「国を作り整え完成させよ」という御言（みこと）を込めて、思いを託して、伊邪那岐命と伊邪那美命に渡しました。

禊祓と三貴子の誕生

伊邪那岐命と伊邪那美命は御言を受けて国作りを始めますが、伊邪那美命は火の神を産んで火傷で亡くなり、黄泉国に行きます。伊邪那岐命は、伊邪那美命に会いに黄泉国に行き、逃げ帰ります。

伊邪那岐命が、黄泉国での「罪穢れ（つみけがれ）」を取り除いたのが禊祓です。「罪穢れ」は、良くないことの原因となる目に見えない何かです。約束を破ったとか、掟・法律に違反したとかいうことではありません。「罪穢れ」は禊祓で取り除けるというのが日本の信仰です。

伊邪那岐命は黄泉国で穢れが付いたと言って、身に付けたモノを捨て、体を海水ですすぎ、外の穢れを取り除きました。伊邪那美命との約束を破った悪い心も、体の中から取り除いたと考えられます。

現在でも、神社に参拝する時に禊を簡略化した手水（てみず）を使います。手を洗って体の外の穢れを取り除くだけでなく、口をすすぐことで体の中の、心の罪穢れも取り除くとされています。（**手水の作法**）

伊耶那岐命は、禊の最後に最も浄められた状態で目や鼻をすすぎました。その時、天照大神（あまてらすおおみかみ）、月読命（つくよみのみこと）、須佐之男命（すさのをのみこと）が生まれました。

今回のあらすじ

伊耶那岐命は禊の最後に立派な神が生まれたことを喜びました。天照大神に高天原を、月読命に夜之食国（よるのをすくに）を、須佐之男命に海原（うなばら）を治めるよう言いつけました。

天照大神と月読命はそれぞれの領域をおさめましたが、須佐之男命は治めようとせず泣き続けました。須佐之男命の神の力が強いため、泣くだけで山が枯れ、海も川も干上がり、あらゆる災いが起こりました。

伊邪那岐命は須佐之男命に「なぜ泣いているのか」と問いただしたところ、須佐之男命は「亡き母のいる黄泉国に行きたい」と答えました。伊邪那岐命は怒って、地上から追放しました。〈**伊邪那岐命の覚悟**〉

追放された須佐之男命は、姉の天照大神に会ってから黄泉国に行こうと思い、高天原に向かいました。

須佐之男命は神の力が強いので、歩くと山や川が全て鳴り、国土は震えました。天照大神は高天原に向かってくる須佐之男命を見て、国を奪いに来たと思い、武装して迎え、須佐之男命に来た訳を聞きます。

須佐之男命は、自分に汚い心は無いといい、証明のため神を産むことを提案します。モノに心を込めて、そのモノから生まれる神を見て、心の清さを確かめようというわけです。

須佐之男命の剣からは女神が生まれ、天照大神の玉からは男神が生まれました。須佐之男命は、自分のモノから女神が生まれたから、自分の心は清らかだ、勝ったと言い、調子に乗りました。〈**失われた慎み**〉

須佐之男命は、天照大神のつくる田の畔（あぜ）を壊し、水路を埋め〈**主要産業へのテロ**〉、神殿に排泄物をまき散らしました〈**信仰施設へのテロ**〉。それでも天照大神は、須佐之男命を許し、かばいました。

須佐之男命が、神様にお供えする布を織る機織り場に皮をはいだ馬を投げ入れました〈**先端技術施設へのテロ**〉。驚いた機織りの女性が梭（ひ）で腹を付いて亡くなると〈**先端技術者へのテロ**〉、ついに天照大神は石屋（いわや）に籠ってしまいました。すると、高天原も地上も暗くなり、永遠の夜が続き、あらゆる災いが起こりました。

困った高天原の八百万の神々は、思金神（おもいかねのかみ）のアイデアに従い、天照大神を石屋から誘い出すことにしました。

太玉命（ふとだまのみこと）が榊の上の枝に勾玉（まがたま）の首飾りをかけ、中ほどの枝に鏡をかけ、下の枝に麻や楮（こうぞ）の布をつけて捧げ持ち〈**玉串の起源**〉、天児屋命（あめのこやねのみこと）が祝詞（のりと）を唱え、天鈿女（あめのうずめ）は神がかりして踊りました。すると八百万の神々は大笑いしました。〈**神社祭祀の起源**〉

天照大神は、自分がいなくなって高天原も地上も暗くなったはずなのに、と思いました。外の様子をのぞき、天鈿女にどうして楽しんでいるのか聞いたところ、あなたより立派な神が要ると言われ不審に思い、外をのぞいたら鏡に映った自分の姿があり、外に出たら、ある神が石屋から引き出したのです。すると、高天原も地上も自然と照り明るくなり、災いもおさまりました。〈**石屋戸開けの神事**〉

八百万の神々は須佐之男命の財産を取り上げ、ヒゲを切り、爪を抜いて高天原からも追放しました。〈**定まった覚悟**〉

神社の祭典の起源

石屋に隠れた天照大神を誘い出すために、八百万の神々が行ったことが、神社での祭典の起源になっています。八百万の神は石屋の前で榊をお供えし、祝詞を申し上げ、踊りを奉納しました。

現在もお供え物（神饌、お酒、初穂料など）を捧げ、祝詞を奏上し、神楽（かぐら）などを奉納し、心を込めて玉串を納めます。

石屋に隠れた天照大神が出てきたときのように、あらゆる災いがなくなり、明るく照り輝いて、みんなが笑って楽しむ世界を再現するのが神社の祭典の目的です。

玉串の作法

現在の玉串は、榊の枝に、楮（こうぞ）の繊維の代わりに紙で作った紙垂と、麻の繊維を取り付けています。簡単に玉串拝礼の作法をご紹介します。（**玉串の作法**）

まず、玉串を差し出されたら、右手で根本を上から持ち、左手は下から葉を支えるように持ちます。

その後、玉串をお供えする台の前に進み、神様に軽く一礼します。

次いで、玉串を正面に立てて持ち、祈りを込めます。

玉串を寝かせ、時計回りに回して根元がご神前に向くようにし、台の上にお供えします。

次いで、二礼二拍手一礼の作法で神様に拝礼します。

神様に軽く一礼してから元の席に戻ります。

まとめ

天照大神に天石屋から出てきてもらうため、八百万の神々が行った事を再現するのが神社の祭典です。手水やお祓いで罪穢れを祓い、祝詞を上げ、玉串というモノに思いを込めてお供えします。

天石屋の前の八百万の神々にならい、一日に一度は神棚や神社で世界の平和と繁栄への感謝とこれからのご加護を祈っていただきたいと思います。また、地域の神社の行事を支えて頂ければと思います。